

エンゲルスと自然科学研究——小さな対話——

加藤 正

人物 エンゲルス 名前だけ記憶されている十九世紀の哲学者

蟲田新一 あぶ マルクス・レーニン主義哲学戦線の闘士——と自称する現代によくある型の左翼討論家
一本正直 純心な感激性に富む自然科学者

—

蟲田新一 僕は議論が非常に好きです。相手を論破することは——勿論もちろんマルクス・レーニン主義哲学戦線のためにですよ——最も必要なことですからね。闘争を通じてのみ吾々は強くなる、と先輩は言った。僕は一度あなたをも批判しようと思って居たんです。第一あなたは自然科学を論じながら、最も根本的なことを忘れてる。あなたは党派の見地を全然没却している。尤もどつちかといえればあなたは実業家でマルクスに金を貢いでたシンパみたいな人だから党派性の欠如は無理もないが、あなたは「自然弁証法」の中でも、『フオイエルバッハ論』の中でも、プロレタリア的階級性党派性のみが科学を発展させる契機であることを忘れて『人間の思惟の歴史的発展』を研究しろとか、『実在の世界を先入見的な観念論的妄想のない人間の誰でもの眼に映ずるがままに把握』しろとか唱える。単なる学者、超社会的客観主義者。あなたは一体天国にでも居

るんですか。

エンゲルス　え、何ですって。天国といえばさつきレーニン君と会って来たばかりなんだが。ここはどこだ。あ、あ日本か。君は。何、マルクス・レーニン主義の哲学者だつて。それは目出度いすな。しかし君の階級性、党派性とは何のことですか。

龜田　プロレタリアートの立場に立つてのみ自然科学を観念的桎梏しづこく（あなたのいう妄想）から解放でき、プロレタリアートの実践の中でのみ認識は発展するということです。認識主体は現在ではプロレタリアートばかりです。『人間の思惟』一般を問題にしているものなんかは、マルクス主義を一時間でも勉強した人の中には一人もいないんだ。

エンゲルス　君は何かを混同しているようだ。恰度生産力と生産関係とが矛盾するように、経験事実の堆積とそれを総括し科学化する思惟とが矛盾や分裂に陥っているというのが、僕の自然科学研究の出発点だったことを覚えておいでかね。プロレタリアートの実践、つまり自然科学で言ったらプロレタリアートの組織する産業や研究機関（これはただソヴェートだけの現象で、君御自身もそういう実践の中には居ないんですがね）の中ではどうかといえ、現在とはとにかく将来はブルジョアジーの組織する産業以上に素晴らしく巨大な『経験事実の堆積』を齎もたらすことは確かだが、もしそうだとしても右の矛盾と分裂の問題はますます重要となりこそすれ、消滅なんかしません。これらの事情を前提すれば、総括する思惟を前進させるということが実際に科学に従事する人にとって中心題目になる訳ではないですか。——ところで総括する思惟ですがね、つまり理論的思惟とか弁証法的思惟とかいうものですね、こいつの訓練と発展には従来の哲学史を研究するほかに道がない。というのは、二千五百年間あらゆる時代あらゆる理論家を通じて発展せしめられて来た人類の理論的思惟の伝統を受けつぐことです。これが第一歩です。

龜田 誰が受けつぎ得るか、プロレタリアートかブルジョアジーか、それが問題だ。

エンゲルス 周章^{あわ}てないで聞き給え^{たま}。ブルジョアジーは将来社会から滅される運命にあるのだから、結局はプロレタリアートになるだろうが、併^{しか}し何かの社会階級が人類の理論的思惟の伝統を継承するというのは、機械的に解してはならないものだ。階級という社会的範疇^{はんちゆう}が直接に継承するのではない。継承のためには自身の中から有資格者理論家を生み出すか、他階級の有資格者理論家を自階級に結びつけるかしなければならぬ。人類の思索史の研究によって自己の理論的思惟を鍛え、『事物の連結を頭（雑多な影響を受けている頭よ！）の中で考え出すことなく、事実の中にそれを発見すること』を習得している人間がつまり継承者展開者伝播者となり得るのです。これらの理論家は人類のあらゆる経験を把握し、一般化し、階級に伝えるプリズムのようなものだ。

龜田 それは運動の初期の頃だ。いまは何でもかでもプロレタリアートの中から生み出せるのだから外からは何も要^いらん。自然科学者だってプロレタリアートの立場に立って始めて理論的思惟を獲得できるのだ。

エンゲルス まさか吾々がいくら運動の初期に居たって、有産者社会の理論的源泉からそのまま階級に水を引いたのじゃありませんよ。吾々——マルクスと僕は理論的伝統を継承しながら同時にイギリスやフランスの先進国の経済的政治的实践によってこれらの遺産に検討を加えて科学的社会主義の理論を樹立したのだ。僕が階級に持ち込んだのはこれだ。レーニン君はどうだったと思うんだね。『初期』だって。だから外から持ち込んだんだって。偽^{いつわ}だ。そのときには既にプロレタリアートのものとなっていたマルクス主義がちゃんとあったのだ。レーニンやその先輩のような頭脳はこれを、ロシア・プロレタリアートの中へ持ち込んだのだ。いまではそれは最も前進した階級だ、それでも（本当はそれだからこそなんだが）マルクス・エンゲルス・レーニン研究所を起して系統的に思想的伝統を階級へ持ち込もうとしている、レーニン君が「理論を外から階級

へ」といったのは、他の階級からという意味でないのは勿論だ。それは階級の中から、階級の実践の中にそのまま理論が形成されるのではなく、階級が認識主観となつてその中に理論が反映するのでなく、実践の経験（ひとりプロレタリアートのそののみならずブルジョアジー、地主、農民、或いは過去の歴史の実践をも）把握し一般化し得る前述のような理論的頭脳（真の認識主観）のプリズムを通じて「理論となり、これが階級の実践の中へ持ち込まれる」ということを言つてゐるのだ。だからこそ階級の中から自然に生まれ出るのではない、ところの政党を結成して理論のかかる性質を維持し階級の実践を先導しなければならんと、レーニン君の得意の論さね。

蟲田 変なことになって来たぞ。自然科学ではどういふことになるんです。

エンゲルス 産業の実践、科学者の実験観察の結果、つまり自然過程の経験諸事実だね。これらの諸事実を思惟の中に把握し一般化して自然科学が生れる。ところでその理論思惟だがこれは前にも言つたように自然過程に関する人間の思惟史、（哲学史・科学史）の研究以外に訓練の方法はない。これらの継承を新しい諸事実で吟味する。新しい事実で豊富にする。そして新経験事実に合致しない観念的部分をすてて、事実に則した連関をとり入れる。これが事実の堆積に思惟がついて行けないために起つた桎梏を除く唯一の途だ。経験科学者は屢々自己の研究した自然過程の一断面、研究方法の一特徴を全面化して自然および自然科学の根本原理にしてしまう。そしてこれが特殊な哲学に慥え上げられ、この哲学がまたいろんなイデオロギーと野合する。こういう事情から脱却するには、従来の理論的思惟を占有して、過程の最も包括的な全面的な把握の科学即ち弁証法をもつこと以外にない。社会主義産業がいかに多くの経験を堆積してもそれに解決は求められぬ。それはますます理論的思惟の緊張を促すだけだろうね。

蟲田 あなたの偏向はそこにあるんだ。あなたは単なる自然科学者として登場しているにすぎん。正しい理論的

思惟、唯物弁証法は書齋の中で、純理論的に訓練できると考えている。第一に唯物弁証法はプロレタリアートの思惟方法・認識論だから、プロレタリアートの立場に立たずしてあなたの所謂いわゆる自然科学を發展させる思惟をもつことはできない。第二に、自然科学を包んでいるイデオロギーや哲学はブルジョアジーのものだが、ブルジョアジーを倒し得るのはプロレタリアートだけだから、プロレタリアートの立場に立たないで破壊的思想の影響とは戦えない。重要なのはプロレタリアートの思惟で人間の理論的思惟一般、超階級のお題目は犬にでも喰くわれてしまった方がよいのです。『学問が何物にも顧慮するところなく何物にも囚こわれずに進めば進むほど労働者の利益と要求とに一致するようになる』だなんてあなたは科学のための科学、科学の超越性の信者ですか。早く天国へでもお帰りなさい。科学は労働者の利益と要求に奉仕すればするだけ正しい發展をとげるのだ。こんなイロハが分らないのですか。

エンゲルス　はてな、僕はマルクス主義者でなかったのかな。それともこの男が縁なき衆生しゅうじやうなのかな。ところでね君、私の若い青年。唯物弁証法だが、これは無産者階級が生み出した訳ではないし、あらゆる理論が無産者階級のひき白でひかれると観念論的部分が落ちて唯物論的弁証法的理論が生れるのでもない。僕はヘーゲルを学べとよく言った。しかし、ヘーゲルのブルジョア的部分を剥いでプロレタリア的なものをくっつけたら唯物弁証法ができるだろうか。否だ。ヘーゲル（一例を挙げればだよ）を継承する。自然および歴史に関して発見された新しい関係をもって吟味する。それに当てはまらぬ部分を改作して、新しく経験された諸関係に適合せしめる。自然と歴史の唯物論的認識はこうして出来てくる。プロレタリア階級（でなくて実際はプロレタリア解放運動）は、その党派は、この認識を自己の武器としている。でね、もし研究室であらゆる実験材料を集めて唯物論的認識の發展を図っている自然科学者に、君はその資格がない、プロレタリアートの立場に立たないからと言ったら、一体どういふことになるかね。プロレタリアートの立場に立つとは、と

不審がって聞いたたら、唯物弁証法を信奉することだと答えたという話があるが、君もその部類だろう。これは循環論法か、でなかったら鬼の武器は金棒だから鬼になるには金棒を持つてばよいといった議論ではないかね。ところで破壊的イデオロギー云々だがこの科学者がその研究において唯物弁証法の立場をとっているということは、他のあらゆる思想的影響に対して少くとも自己の専門で決定的な態度を取り得ることを意味して居ないかね。

蟲田 あなたというのは嚙言だ。いまやプロレタリア自然科学は、あらゆる非レーニンの非党派的ブルジョアの嚙言を蹴飛ばし、党の指導の下に強力に押し進められんとしつつあるのです。

一一

一本正直 僕を労働者の中へ連れて行って下さい。僕をプロレタリアートの実践の中へ連れて行って下さい。

僕は……

エンゲルス 一体どうしたのです。君は労働者のオルグになろうというんですね。

一本 いいえ、そうじゃないんです。僕は理論の……

エンゲルス ああそうですか。君はアチプロ家なんですね。

一本 いいえ、僕は自然科学をやっているんです。唯物弁証法はプロレタリアートの認識論であり世界観であり、プロレタリアートの実践に於てのみ発展せしめられるのです。僕は蟲田君から此の理論の党派性を教わりました。彼は真のレーニン主義者です。それで僕は純粹の労働者がどうい風自然を見ているか知る

うと思うのです。あなたもレーニンも唯物弁証法こそは自然科学が陥っている矛盾を救うと言っておいでですが、プロレタリアの立場に立たないと唯物弁証法はつかめないのです。

エンゲルス　これはまた恐しく混雑したものだ。労働者が君に会ったらきつと先生から少し自然科学を教えてくださいたいと言うでしょうよ。時に君は科学に極めて忠実な人格らしいですね。吾々の見解は、立身出世主義に毒されていない正直な理論家にはすべて受け入れられるものなのです。唯物論とプロレタリアートの使命に関する吾々の見解とは正直な徹底的な科学者の居るところならどこでも承認され研究されています。

一本　あなたはそんなことを言つて僕達に迎合しようというのですか。そのためにあなたは党派性を見失つてしまっているのです。

エンゲルス　や、僕は理論が党派性を高めることを強調して来たが、党派の下に立つか立たないかで理論が伸縮しようとは思わなかつたですよ。反動思想や坊主主義の影響から党派を浄化するのが理論の役目だ。

一本　しかし理論を発展させるのは実践です。しかも実践を指導するのは党派です。

エンゲルス　だから党派への従属ですか。まあお聞きなさい。実践への従属と党派への従属とは直ちに同一のものではありません。君は自然科学を研究している。実践はどしどし経験を堆積し、科学的技術的問題を提起する。君はそれに適応する。君は実践に則して理論を発展させる。問題は君自身が実践の成果を適応的に理論化して行く能力を持っているか居ないかだ。もし君がその能力——弁証法的思惟を鍛えることを知っていたら、実践にとっても理論や哲学にとっても素晴らしいことだろう。党派は君に向つて言うでしょうよ。君の知識こそ吾々にとって必要なのだ、党派的課題性のおしゃべりばかりで、どんな課題にぶつかつても準備のできて居ない御連中にはウンザリするつてね。実践の成果にとり残されないことは君達科学者の科学者と

しての、本来の名誉なのではないですか。

一本　しかし実践との統一を教えることのできるのは現在では党派ばかりですから……

エンゲルス　人から働きかけられなかったら実践に立ち後れるんだったら、そうなさいまし。だがあまり立派な科学者ではないな。君は実践・実際・実地に依拠するというのが科学に固有なスローガンであることを忘れ給^{たま}うな。それは現在でも党派においてだけ維持されているスローガンではない。党派へ従属せよと大声でさけんでおいて、実は実験の成果や産業の技術的課題に適應せよという意味なんだと註訳したら余程間が抜けて見えるでしょう。実践といえは党派もまた実践との統一を学ぼうとしている（但しそれは階級闘争の実践ですよ）そして政策の党派性を緊張させている。党派が産業建設に当面し、科学者・技術家を社会主義へ（必ずしも党派へではありませんよ）結びつけ、或いは技術インテリゲンチヤ養成の課題を立てたとき、君がこの党派の課題に従属してそれらの人々の組織や教育に当たったら、それはまた党派にとつて素晴らしいことだ。しかしこの党派の課題の宣伝者実現者となることと、君が専門の領域で弁証法的唯物論の立派な理論家になることとは同一のことではありませんよ。

一本　何だか問題が僕の方らない方へぐんぐん廻わって行くようですが、あなたは党派への従属、プロレタリア的立脚地への移行以外の道から唯物弁証法が把^{とら}えられるというのですか。吾々はレーニンから学びます。共産主義的党派性とプロレタリア的立場を一貫した彼においてこそ唯物弁証法はあらゆる歪曲から純化されているからです。

エンゲルス　どうも妙ですね。レーニン君は最もよく僕から学んだ稀に見る弁証法の理論家です。だから科学者も彼から学び、ボルセヴィキも彼から学び、プロレタリアートも彼から学び、レーニン君はこれらすべての指導者となったのです。彼は新しい経験、新しい徴候、新しい科学の成果を何一つ見落さずに把握し一般

化し、新しい課題に適應することを知っていたので、吾々の理論を豊富にし、またプロレタリアートの立場を一貫することができたのです。君はプロレタリアートの立場に立ったり、共産主義的党派性を一貫するという何をか理論的な認識論的な事柄として考えているようですね。だがそれは階級闘争の実践の問題ですよ。組織的政策の問題ですよ。実践から理論へでなくて理論から実践への問題ですよ。——ところで君はレーニン君の哲学的遺言を覚えていますか。

一本 そうですね。何でもブルジョアジーの思想的代弁者どもが自然科学上の発見を唯物論の攻撃に向けているが、これらに対して決定的な態度を取ろうと思えば、自然科学者も弁証法的唯物論者にならなければならぬ、強固な哲学的基礎を持たねばならない、だったと思います。

エンゲルス レーニン君は理論的思惟の意義をよく理解していたからね。ところで弁証法的唯物論を獲得するためにレーニン君はどんなアドヴァイスをやりましたか。

一本 このためには、唯物論の立場からヘーゲル弁証法の系統的組織せよというようなことでした。そうすれば、そこに今日の自然科学上の革命が提出し、且つブルジョアの流行の崇拜者どもを反動に追い込んだ哲学上の諸問題について幾多の解答を発見するだろうと書いてあったようです。

エンゲルス おやおやレーニン君も僕と同じようなことを言いますね。党派性なんかのことを言わなかったかな。でも結構です。君はそのヘーゲルの研究をやりましたか。

一本 いえ。

エンゲルス 尤もヘーゲルの緊要な部分はマルクスや僕の著書に唯物論的に継承している訳ですがね。君はタレス、アリストテレス、デモクリトス、ルクレチウスといったような古いところでもなくとも、ブルノー、デ

カルトからカント、シェリングとヘーゲルといったような人達の自然哲学的学説を考えて見ましたか、これらはみんな人類の理論的思惟の伝統を継承し発展させた名前です。物理学ではコペルニクスからニュートン、マックスウエル、ローレンツ、プランク、アインシュタイン等のオリヂナルな諸理論、その他自然諸科学史の脈絡ある研究をやって見ましたか。面白半分こんな名を挙げたものではありません。自然科学の理論的な統一と発展に従事するものは、哲学および自然科学史においてどんな理論が生れ或いは発展し或いは淘汰されたかを先ず知る必要がある。これらはすべて実験や産業が事象の関係を思惟する頭脳の前に提供し、これまでに予想的に設定されていた諸関係が具体化されたり修正されたり置き代えられたりした結果として、変遷したものののです。こういう伝統を継承することは、新しい経験事実の堆積を総括する際に既に過去において打破された狭い認識形態に頼って一面化に観念化に陥り堆積から取残され、而も気がつかないでいる状態を救ってくれる、それと同時に、最も優れた最も包括的多面的な認識形態に準拠して新事実の堆積を料理して行く可能性もこの継承から与えられるのです。これらの認識は全人類が何千年かの間に形成した伝統で、これと別個に、何等かの社会的触撥しよくはつを受けてあらゆる認識に素晴らしい効能のある認識原理が獲得できるといふことは眉唾まゆつばものですね。

一本 正否はとにかく、あなたの言っていること自身は理解できるようです。理論的思惟や弁証法の勉強の必要はよく分りましたが。しかし吾々資本主義国では産業の破滅の方面から自然科学の発展は杜絶しつつあるのです。これに反してソヴェートでは……

エンゲルス ええええよく分つて居ますよ。しかし現在の科学的事実すら充分理論化されていないじゃありませんか。これまでの自然科学理論のすべてが新発見によって吟味され、発展せしめられ、弁証法的唯物論の中に統一されつつあると言えないじゃありませんか。それにまたソヴェートの産業と実験の成果の理論化に

まで君が進出したって誰から文句が来るのです。

一本 そういえば、ソヴェートで出ている英仏独語の『ソヴェート物理学雑誌』に各国物理学者の協力を希望し、国際物理学者の提携を促進せんことを期すとか書いてありました。

エンゲルス 理論的思惟は本質的に実践の諸達成に依拠するものだが、実践はいつでも理論的思惟を産むのじゃない。ドイツの哲学はフランスの革命を把^とえて発展したし、ドイツの唯物論的弁証法はイギリスへまで資本主義史の材料採取に赴いた、がイギリスはマルクスを産まなかった。社会主義産業も自然科学的思惟の伝統を継承するのになかったら、深刻な自然科学理論を産まないでしょう、そしてその光栄を他国の理論科学者の手に奪われるかも知れない。こんなことは杞憂^{きゆう}だろうが。

一本 何だか非常に意外なことばかり聞いたようだが——しかももう一度あなたの言葉をよく考えて見ましょう。吾々の間でもソヴェートでも議論が相当激烈であり乍^{なが}ら、具体的な成果を組み立ててゆく歩調には大分足踏みがあるようです。どんなところに原因があるのかもよく考えて見ましょう。

エンゲルス 意外なことばかり聞いたのは僕の方ですよ。天国へ帰ったらレーニン君にも面白かった話をしまししょう。

- 『加藤正著作集』第一巻（「加藤正著作集」刊行委員会、一九八九年一二月）所収。
- PDF化するにあたり、旧漢字は新漢字に、旧仮名遣いは新仮名遣いに改めた。
- 読みやすさのために、適宜振り仮名をつけた。
- PDF化には $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}_{2\epsilon}$ でタイプセッティングを行い、`dvipdfmx`を使用した。

科学の古典文献の電子図書館「科学図書館」

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/munehiro/sciencelib.html>

「科学図書館」に新しく収録した文献の案内、その他「科学図書館」に関する意見などは、「科学図書館掲示板」

<http://6325.teacup.com/munehiroumeda/bbs>

を御覧いただくか、書き込みください。